



京都コンサートホール 魅力向上方針



令和6年10月



京都市

【場所】

- 豊かな自然と文化的環境に恵まれた北山エリアに立地

【設計・開館】

- 建築設計は磯崎新アトリエ、音響設計は永田音響設計
- 「世界文化自由都市宣言」の理念のもと、平安建都1200年を記念し平成7年に開館

■ 京都が世界に誇るクラシック音楽の殿堂

- 国内最大級のパイプオルガン
- 京都市交響楽団の本拠地



(出所)
京都市都市計画マスタープラン 地域まちづくり構想編 (17 北山文化・交流拠点地区)



©京都市交響楽団



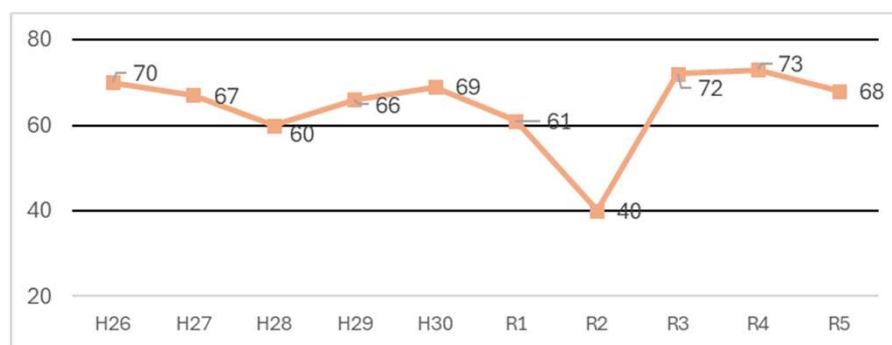
開館から約30年が経過し、施設・設備の老朽化が進行することで、大規模な改修が必要な状況。これまでの評価等を踏まえ、新たなステージへ踏み出していく必要がある。

■ 京都の音楽文化の象徴的存在

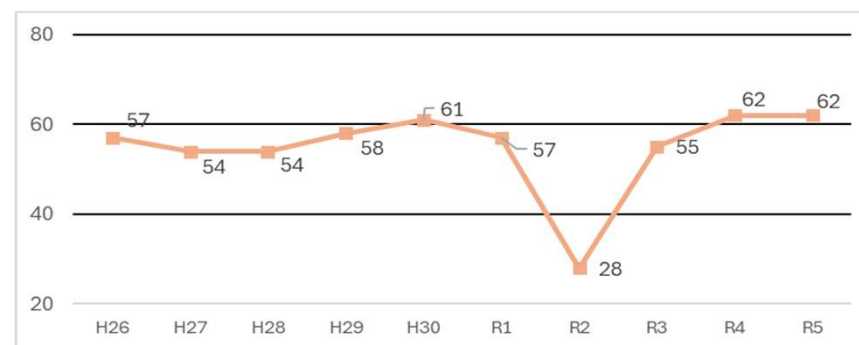
- 京都が誇る京都市交響楽団の本拠地
- 多種多様な鑑賞・体験・創造の場の提供や担い手育成等、京都コンサートホールならではの事業展開
- 京都市立京都堀川音楽高等学校、京都市立芸術大学、京都市ジュニアオーケストラ等の全国有数の育成環境が輩出する若き担い手の発表の場
- ロームシアター京都（総合舞台芸術）、文化会館（市民の文化活動拠点）との連携
- プロからアマまで多彩な音楽活動の拠点（利用率は概ねコロナ前の水準に回復）



《大ホール利用率（日数）推移（％）》



《アンサンブルホールムラタ（小ホール）利用率（日数）推移（％）》



■ 優れた音楽環境

- 優れた音響・建物の意匠
- 国内最大級のパイプオルガン
（笙（しょう）、箏（ひちりき）、篠笛、尺八といった京都ならではの和楽器の音も）

来館者の主な意見

- パイプオルガンのコンサートをずっと続けてほしい
- パイプオルガンの音色をじっくり楽しめる演奏が聴きたい等

■京都市交響楽団の更なる飛躍

京都市交響楽団ビジョン（令和元年度）

京響が「目指す姿」

- 身近な存在として、市民に愛され誇りとされるオーケストラ
- 文化芸術都市・京都の象徴となるオーケストラ
- 世界に向けて最高の音楽を発信し続けるオーケストラ

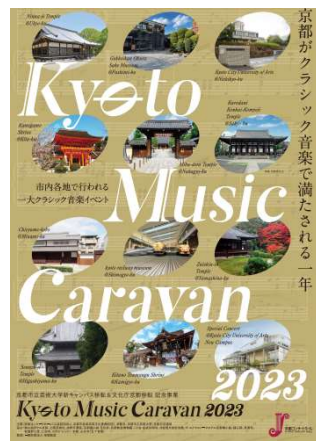
5つの戦略

- ①世界水準の音楽で京都の文化芸術をリードします
- ②音楽を通じた京都のひと・まちづくりに取り組みます
- ③京響ファンの拡充、身近な関係づくりを進めます
- ④プロの音楽家集団として自覚ある組織風土を形成します
- ⑤楽団経営の基盤を整え、マネジメントを強化します

■京都コンサートホールの更なる価値向上

- アクセスが改善した京都芸大等との更なる連携
- 多彩なニーズに応える企画の充実
- 若者も含めたファン層のさらなる拡大・利用促進

近年の取組事例



◆Kyoto Music Caravan2023 (2023)

京都芸大新キャンパス移転＆文化庁京都移転を記念して、市内11区の名所や観光地等で京都芸大在学生等による無料コンサートを実施

◆オムロンパイプオルガンコンサート (2023)

ナビゲーターの解説付でホールの天井に星を投影する新たなパイプオルガンコンサート

来館者の主な意見

- クラシックのハードルを越える手助けになってほしい
- 多彩な音楽を聴きたい
- 聴きなじみのあるクラシック曲を演奏してほしい
- 身近に感じられる音楽を提供してほしい
- 料金が高くてもよいので、海外オケと共演してほしい 等

■時代の移り変わりによる環境変化への対応

- 施設・設備の老朽化（機能維持、利便性・安全性の向上）
- 物価高騰、円安等による海外オーケストラの招聘困難
- 少子化による育成環境への影響

近年の海外オケ招聘実績

- ◆ ニューヨーク・フィルハーモニック（2018）
観客数：1,767名（完売）
- ◆ フィラデルフィア管弦楽団（2019）
観客数：1,587名
- ◆ ロンドン交響楽団 京都公演（2022）
観客数：1,333名
- ◆ 2つのショパン国際コンクール優勝ピアニストによる
The Real Chopin×18世紀オーケストラ京都公演（2023）
観客数：1,192名

来館者等の主な意見

京都コンサートホールの施設・設備について

- 女子トイレが混雑している
- トイレの場所が分かりづらい
- 大ホールバルコニー席の場所が分かりづらい
- 看板を増やしてほしい
- 車いすの移動ルートに制約がある 等

■周辺まちづくりへの貢献

- 北山エリアにおける各施設間の連携や、来訪者の往来・周遊・滞在が不十分
（京都府「北山エリア整備基本計画」）



【主な強み】

- ・京都市交響楽団の本拠地
- ・多種多様な鑑賞機会等の提供や担い手育成等、京都コンサートホールならではの事業展開
- ・堀音や京都芸大、ジュニオケ等、全国有数の育成環境が輩出する若き担い手の発表の場
- ・ロームシアター京都、文化会館との連携
- ・プロからアマまで多彩な音楽活動の拠点
- ・優れた音響、意匠を保持
- ・国内最大級のパイプオルガン

【主な課題等】

- ・京都市交響楽団の更なる飛躍
- ・アクセスが改善した京都芸大等との更なる連携
- ・多彩なニーズに応える企画の充実
- ・若者も含めたファン層の更なる拡大、利用促進
- ・施設・設備の老朽化
- ・物価高騰、円安等による海外オケの招聘困難等
- ・少子化による育成環境への影響
- ・北山エリアにおける各施設間の連携や、来訪者の往来・周遊・滞在が不十分

《評価》

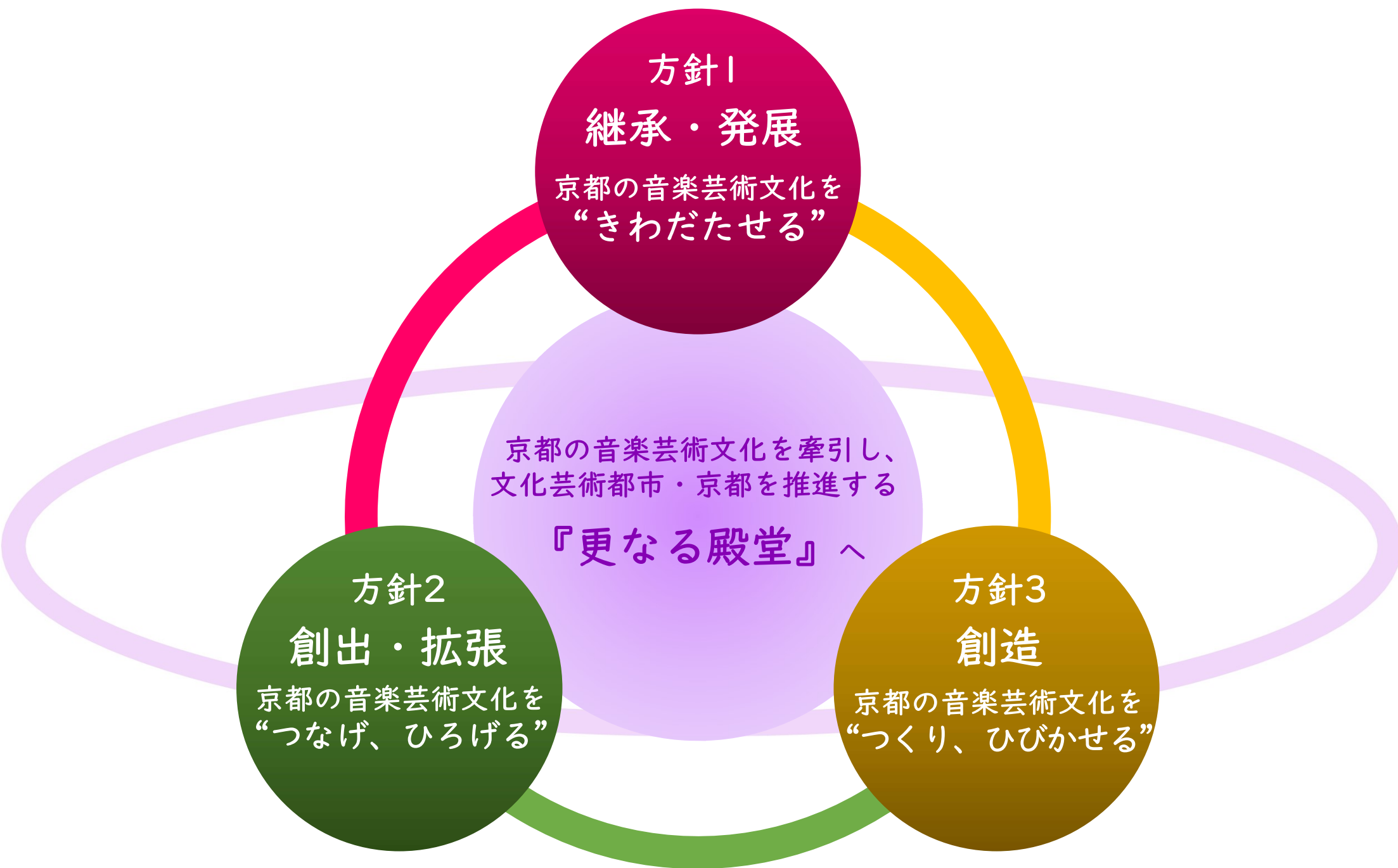
- ✓ 世界文化自由都市宣言」の理念に基づき、約30年にわたって、京都市の音楽芸術文化の殿堂として「文化芸術都市・京都」を牽引。
- ✓ 京都市交響楽団をはじめ高水準のクラシック音楽を提供し、また、若き担い手の発表の場としての役割も果たし、本市の音楽芸術文化の振興に不可欠なホールとしてその基本的な機能を維持しつつ、利便性・安全性の向上等を図る必要がある。【継承・発展】
- ✓ 併せて、京都市交響楽団の更なる飛躍、多彩な企画等によるファン層の新規獲得や、少子化を見据えた担い手育成機能の充実、更には、北山エリアの活性化への貢献等により、京都コンサートホールの存在感を一層高める必要がある。【創出・拡張】 【創造】

▶ 京都コンサートホールの強みを活かし、課題を超えていく
「文化芸術都市・京都」を牽引する音楽の殿堂・京都コンサートホールへ

- ①京都に根ざす優れた文化芸術を
未来に継承・発展させるとともに、
- ②異なる世代、地域の交ざり合い・支え合いや、
様々なひとの居場所と出番を創出・拡張することで、
- ③「京都のまちは面白い」と、
ワクワクするような京都の文化の未来を創造する。

そしてこれらを国内外に発信することで、
文化芸術の力で国内外から選ばれる「文化芸術都市・京都」を実現していく。

▶ 「文化芸術都市・京都」の実現に向けた京都コンサートホールの新たなステージへ
「京都コンサートホール魅力向上方針」



方針Ⅰ
継承・発展

京都の音楽芸術文化を“きわだたせる”

京都コンサートホールの価値・役割をきわだたせて、
質・ファン認知度・関心度を向上

【中長期的に目指す状態】

京都市民をはじめ、
国内外の音楽ファンを魅了してやまない
京都コンサートホールとなる。

■主な取組（下線は大規模改修関係）

- ① 京都市交響楽団の世界水準のブランド力の更なる向上と、
多くの都市から招かれるオーケストラへの発展・進化
- ② 「京都の秋 音楽祭」の開催等、国内外の質の高い音楽鑑賞機会の提供
- ③ より多くのニーズに応えるクラシック演奏会の開催
- ④ ロームシアター京都や文化会館とのそれぞれの特徴を活かした連携強化
- ⑤ 京都芸大との連携等、音楽芸術の発信強化
- ⑥ 大規模改修による機能維持、利便性・安全性の向上
(ホール内階段のスロープ化、エレベーター増設、女性トイレ増設、特定天井改修等)

方針2 創出・拡張

京都の音楽芸術文化を“つなげ、ひろげる”

京都の音楽芸術文化を活かした、つなげ、ひろげる取組で、新たな利用者や来訪者、協力者等を掘起こし

【中長期的に目指す状態】

ダイバーシティ&インクルージョンを
体現することで、子ども、若者をはじめ
多様な人が集い、交ざり合いが促進され、
京都の音楽芸術文化の裾野が広がっている。

■主な取組（下線は大規模改修関係）

- ① 京都市交響楽団の京都コンサートホールでのリハーサルの公開
- ② 京都市交響楽団等によるロビーコンサートの実施
- ③ 親しみやすいプログラムによるクラシック演奏会の開催
- ④ パイプオルガン実演の子どもたち等への公開
- ⑤ 京都市ジュニアオーケストラの運営
- ⑥ 市民・企業等に向けた、建物意匠やパイプオルガンの仕組み等も楽しめるバックステージツアー
- ⑦ 学生、新進音楽家等へのホール利用支援
- ⑧ 伝統文化・先進技術等の他分野とのコラボレーション
- ⑨ 周年事業等の開催と、それを契機とした新たな関係性の構築

令和7年度 京都コンサートホール30周年、ジュニアオーケストラ20周年、ロームシアター京都10周年

令和8年度 京都市交響楽団70周年、京都の秋 音楽祭30周年

方針3 創造

京都の音楽芸術文化を“つくり、ひびかせる”

北山エリアで音楽芸術文化をつくり、ひびかせることでエリア認知度や交流人口を向上させるとともに、京都の生活・観光様式として定着

【中長期的に目指す状態】

京都コンサートホールを開かれた場として、北山エリアを中心に、多くの市民や来訪者が、京都で音楽に親しむスタイルが広がっている。

■主な取組（下線は大規模改修関係）

- ① 京都市交響楽団が京都コンサートホールでのリハーサル実施等を通じて演奏力を更に高め、ホームである北山で開かれたオーケストラとして発展・進化
- ② 近隣のホールでの京都市交響楽団の積極的な演奏活動による、京都市交響楽団やオーケストラのファン層の拡大、コンサートホールの集客増
- ③ アウトリーチ活動の更なる展開等、誰もが気軽に音楽を楽しめる取組の推進
- ④ 周辺施設等と連携した音楽のあるシーンづくり（京都府との連携等）
- ⑤ レストランスペース、ロビー等のサードプレイス活用
- ⑥ 駅や宿泊施設等を活用した公演情報の発信
- ⑦ SNSやホームページの充実等、広報宣伝の拡充

京都コンサートホール大規模改修

京都市の音楽芸術文化の将来を展望する『50年の計』

大規模改修を契機に、京都コンサートホールの魅力向上を強力に推進し、将来にわたり京都の音楽芸術文化の価値を高め続ける。



施設単体の機能維持にとどまらず、子ども、若者をはじめとした多様な人々の交ざり合いを生みだし、開かれた京都の音楽芸術文化の源となることで、京都市の上質な音楽芸術文化の価値をさらに高め、北山エリア周辺はもとより京都市全体の地域活性化に資する。

■大規模改修の主な内容

①劣化改修

電気設備、機械設備、舞台設備（音響・照明・機構）の更新、パイプオルガンオーバーホール、外壁及び屋上防水改修、大ホール及び小ホール内等の内装及び建具の劣化部分の補修

②現行法への対応

特定天井対策（エントランスホール、ホワイエ）、昇降機更新に伴う構造安全性検討、通路階段部のスロープ設置

③環境負荷への対応

省エネルギーを考慮した設備機器等の選定、太陽光発電設置

④利便性の向上

大ホール内エレベーター新設、1階女子トイレ個室数の増設、チケットカウンター及びエントランスホールのデジタルサイネージ等設置